

(7) 中小規模の病院に勤務する看護師の基本背景とライフスタイルの関連

川崎医療福祉大学大学院保健看護学専攻修士課程 ○山田 桜子
川崎医療福祉大学保健看護学科 伊東美佐江

【要 旨】

【目的】 中小規模の病院に勤務する看護師の基本背景とライフスタイルの関連を明らかにする。【方法】 全国の100床以上200床未満の病床数を有する一般病院の中から、単純無作為に200施設を抽出し、2年目以上の看護師経験のある方に依頼した。1施設あたり20～50代の各年代の5名ずつを対象とした。看護部長の書面による同意を得た後に、看護師に対し、無記名自記式質問紙調査を行った。調査内容は、基本属性（性別、年代、婚姻状況、子どもの有無、勤務形態）、ライフスタイルとして特定健診における標準的な質問票（22項目）を使用した。分析は、統計解析ソフト IBM SPSS Statistics Desktop 22.0 for Base and all Modules を使用し、記述統計、 χ^2 検

定を行った。川崎医療福祉大学の倫理委員会の承認を得て実施した。【結果・考察】 同意の得られた施設は73施設であった。調査票の回収は1,053件、1,029件（70.5%）を分析対象とした。間食・欠食、飲酒の有無とその量、身体活動・運動、体重の変化では、基本属性に有意差を認め（ $p=0.000\sim.048$ ）、喫煙の有無では、性別と年代に有意差を認めた（ $p=0.000\sim.042$ ）。休養では、勤務形態に有意差を認めた（ $p=.022$ ）。交代制勤務に伴う生活リズムや婚姻や子育てなどのライフサイクルにおける多様な変容は、看護師のライフスタイルの形成に影響を与えることが示唆され、看護職が健康的に働き続けるためにも、ライフスタイルの確立に向けた支援が重要であると考えられる。